社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第6号　1994（pp.21-26）

社会科における基本的内容に関する個別学習の授業実践
－小学校5年「工業単元」の実践事例を手がかりとして－

Practice and Improvement of Individualized Learning Concerning Fundamentals in a Social Studies Class
: based on the Cases of "Industrial Learning" in the Fifth Grade－

竹　林　康　司
（大阪市立阿倍野小学校）

Ⅰ　はじめに

平成版小学校学習指導要領（以下，新学習指導要領とする）の基本方針のひとつに「基礎・基本の重視と個性化教育の推進」がある。これは，初等中等教育では，「国民として必要とされる基礎・基本を身につけさせる過程においては，さらにそれを基盤にしながら，一人ひとりの児童の取り柄や良さを見出し，それを育てる努力の大切さを求めているのである」[1]とあるように，基礎・基本を確実に身につけさせるとともに，個性を伸ばすことの必要性を求められているのである。

この「個性化教育」が重視される背景としては，次のように考えられる。一つは，近年の「落ちこぼれ」問題を契機に，学校教育において，これまでの「教授過程」の重視から子どもの「学習過程」に基本がおかれるようになってきたことである。教師の一方的な教授活動は，学習意欲を育てることにはならない。これからは学習意欲を育てることに目をむけた教育が要求される。学習意欲は，「教える」教育の営みでなく子どもの「学ぶ」営みのなかで育つものである[2]。これにともなって，授業のすすめ方も多様化してきている。その形態のひとつが個性化・個別化学習なのである。

しかし，「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」が両立するであろうか。基礎・基本の習得を目指すのなら画一的な一斉指導のもとでの授業形態が有効であることは以前から述べられているが，個々の能力や興味・関心といった個性が無視されているという問題がある。一方，個性化・個別化学習を進めれば子どもの興味・関心，生活経験の違いや能力差といった個人差から個々に応じた基礎・基本の習得を図らなければならず，そのため学習内容での基礎・基本が明確にとらえられないことになる。つまり，基礎・基本の習得が曖昧になってしまうという問題がある。

その意味で「基礎・基本の徹底と個性化教育推進」の両立を図る学習内容や指導方法を明らかにすることが課題ではないだろうか。

個性化・個別化学習の重要性は以前から述べられており，個性化・個別化学習をテーマにした文献は，今までに多々刊行されている。しかし，多くの文献は，個性化・個別化学習の概念規定にその論の中心がおかれ，指導形態のモデル構成におわっている。さらに，これらの指導モデルも基礎・基本の習得と個性化・個別化学習の指導方法とを関連させたモデルとはいえないところに問題がある。実践的な文献や論文も，個性化・個別化学習の指導方法を取り入れた授業の紹介で，基礎・基本と個性化・個別化学習との関連から授業を考察していないところに問題がある。[3]

このように見ていくと，個性化・個別化学習としての指導方法については様々な見地から研究や実践がなされているが，基礎・基本との関連においての問題が残されている。そのため，これからは「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」という両者の関連から学習指導方法を考察していくことが重要な課題になるのではないだろうか。

つまり，小学校社会科における基礎・基本（以下，基本的内容とする）の構造を明らかにし，どのような個性化・個別化学習（以下，個別学習とする）の方法によりこれらの基本的内容を学習しているのかを収集した5学年における授業実践をもとに考察し，さらに授業改善の視点を明らかにしていくことが本研究の目的である。

Ⅱ　基本的内容と個別学習方法の類型

(1)　基本的内容の類型

授業では，多様な活動のもとで様々な基本的内容の習得が図られた学習が行われている。この収集した授業実践例について，「産業学習」を中心に分析していくと習得される内容は，4つに類型することができる。一つは「産業単元における基本的内容」であり，二つは「基本的内容から方法的に発展した内容」，三つは「基本的内容から内容的に発展した内容」，四つは「基本的内容から個性的に発展した内容」である。ここでは，紙面の都合で「工業単元」（伝統的工業）に絞っ

て述べていく。

産業学習における基本的内容とは，学習指導要領の5年で示されている目標や内容であり，小学校指導書の5年の内容である。これらの内容を整理していくと基本的内容としての視点を明らかにすることができるえさせる」という記述がある。この点について，指導書では，「国民生活の上で工業生産が大切であることを理解できるようにすること」[4]と，工業と生活との関連を述べている。新学習指導要領でも同様に，目標や内容において「工業生産と国民生活との関連」を理解させることが大切である旨のことを述べている。

工業と生活との関連について「工業生産は国民生活と深くかかわっている意味で重要である」と述べていることから，工業単元における基本的内容として「生活」という視点を設定することができる。

同様に新旧の学習指導要領や指導書の内容を整理すると，この単元では，「生活」「生産」「工夫」「条件」といった基本的内容の視点を設定することができる。これらの視点の内容は，以下の通りである。

① 工業生産（伝統的工業）に関する基本的内容の視点

「生活」

伝統的な技術を生かした工業製品は，近代工業による製品とは違い，一つ一つの製品に個性があり，生活する上で重要な役割を果たしている。

「生産」

伝統的な技術を生かした工業の生産活動は，昔から受け継がれてきた技術を生かし，道具を用いた手作業によって製品を作ることである。

「工夫」

生産には，長年の経験と修行から習得したすぐれた技法が必要であることや技術を守るために国や地方公共団体等の保護といった工夫や努力が必要である。

「条件」

伝統工業の発展には，歴史的要因や原料，気候，などの地理的条件と深い関わりがある。

② 基本的内容からの方法的発展の視点

収集した授業実践を分析していくと，一定の基本的内容を習得すれば「発展」へと進み，そこで自由な課題学習が行われている授業実践が見られる。この「基本的内容からの方法的発展」は，発展コースの中で習得される内容であり，基本的内容の学習における学習方法から自分の学習にあった学習方法を選択し，異なった事例（他事例）を追求したものである。

「工業生産」の中には次のような「他事例」への発展が見られる実践事例がある。

「伝統工芸－保田紙」[5]では，基本的内容の学習として，保田紙の生産工程や高度な技術を守るための人々の努力や工夫について学習した後，「発展」として「全国の伝統工業について調べる」がある。これは，子どもの興味・関心により，全国の伝統的な工業から自由に地域を選択して学習が行われているものである。このように，「基本的内容の習得」において学んだ学習方法から，子どもの学習スタイルや能力に応じて好きな学習方法を選択させ，他の地域の伝統工業について学習させるというものである。

③ 基本的内容からの内容的発展の視点

基本的内容の範疇を越えるものだが，学習内容と関連して発展したもので，産業学習の一貫として位置づけることができるものである。

これは，内容的にみて「食料生産と消費」と「工業生産と消費」に分けることができ，さらにこれらの視点を授業分析により整理していくと「食料生産と消費」では，「将来像」「政策」「貿易」といった視点が，「工業生産と消費」では，「消費」「貿易」「地域」といった視点が設定できる。

ここでは，「工業生産と消費」について述べる。

「消費」

近代的な工業製品は，なぜよく売れるのかといった消費に関する問題を学習内容としているものである。ある事例では，「なぜ，自動車はよく売れるのか」「なぜ人々は自動車を買うのか」といった問題を学習内容としている。

「貿易」

工業製品における輸出入の問題である。日本の近代的な工業製品の輸出が他国で貿易摩擦として問題化されているものを学習内容としているものである。

「地域」

工業の発達が，地域にどのような影響を与えているのかを学習内容としたものである。ある事例では，「自動車工場ができてから，町はどのように発展していったのか」といったように，工場の発展の影響を学習内容としている。

④ 基本的内容からの個性的発展の視点

基本的内容から個々の興味・関心により自由に発展したもので，学年や教科の枠にとらわれない学習内容としているものである。これは，その内容により，「環境」と「国際理解」に分けることができる。さらにこの内容の視点を授業分析により，「環境」では，「保全」「利用」といった視点を，「国際理解」では，「人権」「文化」「政治」「産業」といった視点を設定することができる。ここでは，「環境」について述べる。

資源や環境問題などを学習内容としているもので，主に実践的な活動に取り組んだり，日本と外国との環

境問題を学習内容としているものである。この視点の内容として以下のように設定した。

「保全」

環境の保全の大切さやその方法などを学習内容としたものである。ある事例では，「牛乳パックのリサイクル」「廃油から石鹸を作る方法」『空き缶のリサイクル」といった実践的な活動を学習内容としている。

「利用」

資源の有効利用やその問題などを学習内容としたものである。ある事例では，森林資源の有効利用の学習から日本や東南アジアの森林破壊の問題を学習したり，電力やエネルギーの有効な利用などを学習内容としている。

(2) 基本的内容に関する個別学習方法の類型

指導方法の形態を基本的内容の習得の面から見ると，大きく2つの観点から分類できる。一つは「指導要領に基づいた基本的内容に関する指導法」という観点からの指導形態であり，もう一つは「個々の興味・関心に基づいた基本的内容に関する指導法」という観点からの指導形態である。

前者は，学習指導要領に示された基本的内容の習得を到達目標とし，全員が同レベルまで達成することをねらいとしているものであり，その形態から「一律的指導型」と「発展的指導型」に分けることができる。

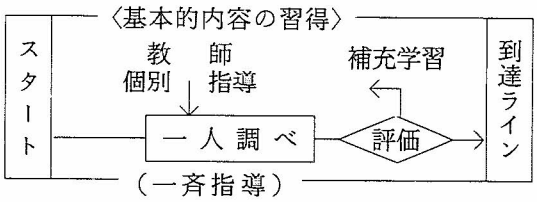
後者は，同じように基本的内容の習得を図っているのだが，個々の実態や能力に応じて個々の到達目標が設定され，全員が同レベルまで到達することをねらっていないものである。その形態から，これを「個性的指導型」とする。さらに，前者，後者ともそれぞれの学習形態から，「一斉」と「個別」に分類する。

① 一律的指導型における個別学習

一律的指導型とは，単元構成が，基本的内容の習得を最終目標とした形態になっているものである。そのため，教師により，基本的内容の習得における一律的な到達ラインが設けられている。学習後の評価により基本的内容の到達ラインの到達度が測定され，この到達ラインに達しなかった子どもについては，個別に補充学習が組まれている。この指導型には，学習形態により，「一斉」と「個別」の指導方法がある。

ア）一律的「一斉」指導型

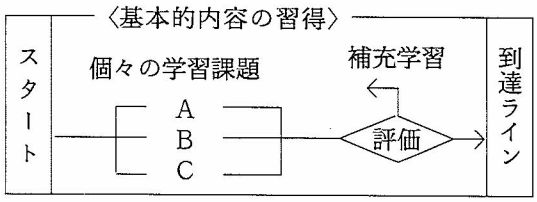
一律的「一斉」指導型とは，教師主導での一斉指導



が行われている従来の授業形態である。この学習展開における個別学習としては，共通の学習課題を追求した「一人調べ」の学習が主に行われ，教師は，机間巡視により個々に対応した個別指導をしている。

イ）一律的「個別」指導型

一律的「個別」指導型とは，基本的内容の習得を最終目標としている意味では一律的「一斉」指導型と同じだが，個別学習の指導方法がそれとは異なっているものである。学習内容は共通であるが，個々の能力や興味・関心に応じた学習課題を設定または選択した課題別の学習が行われている。教師は，「助言者」という立場で，課題別に子どもの相談に応じたり，教室内巡視による課題別指導で個々に対応している。また，学級の枠を越えて，教師は，T・Tを組み，課題グループごとに指導を行っている事例もある。

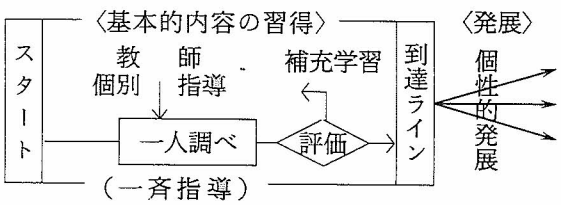


② 発展的指導型における個別学習

発展的指導型とは，一律的指導型のように基本的内容の習得が最終目標ではなく，基本的内容の到達ラインに達した者から「発展」として一斉指導の枠を越え，自由に学習内容や課題を設定，選択した学習が組まれているという個性的な発展をめざしたものである。また，一律的指導型と同様に，学習後の評価により基本的内容の到達ラインの到達度が測定されている。この到達ラインに達しなかった子どもについては，個別に補充学習が組まれている。この指導型には，学習形態により「一斉」と「個別」の指導方法がある。

ア）発展的「一斉」指導型

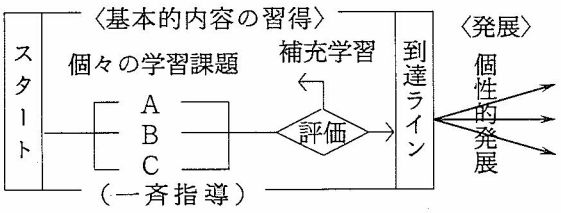
発展的「一斉」指導型とは，基本的内容の到達ラインまでは，一律的「一斉」指導型と同様に共通の学習課題のもとで「一人調べ」の学習が行われ，到達ラインに達した者から「発展」へと進む学習形態である。



イ）発展的「個別」指導型

発展的「個別」指導型とは，基本的内容の到達ラインまでは，一律的「個別」指導型と同様に共通の学習内容だが，個々の能力や興味・関心による課題別学習

が行われ，到達ラインに達した者から「発展」へと進む学習形態である。

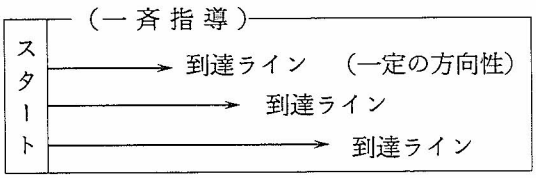


③　個別的指導型における個別学習

個別的指導型とは，一律的指導型や発展的指導型のように一律的な基本的内容の習得を目的とはせず，個々の実態に応じた到達ラインを設定した学習指導の形態である。そのため，学習後の到達度を測定するような評価がなされておらず，教師は，日々の授業の観察や自己評価などから個々の子どもの実態を把握し，個々に応じた応援活動をしている。この指導型には，学習形態により「一斉」と「個別」の指導方法がある。

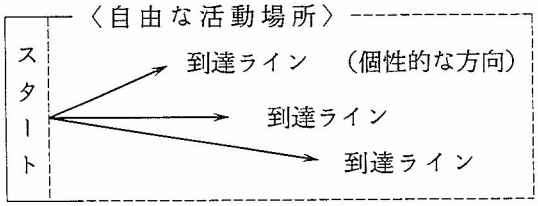
ア）個性的「一斉」指導型

個性的「一斉」指導型とは，一斉指導の枠内で，個々の実態に応じた能力の育成をめざした学習形態である。個々の実態に応じた到達ラインを設定し，個々の興味・関心に応じた学習課題を設定するために，日々の子どもたちの様子や興味・関心，個々の目標などを記した「座席表指導案」などによる授業が行われている。



イ）個性的「個別」指導型

個性的「個別」指導型とは，一斉指導の枠にとらわれず，自由な活動場所が確保され，しかも個々の実態に応じた到達ラインが設定された学習形態である。学習は，主に「学習の手引き」やワークシートなどにより行われる自学自習的な学習方法であり，個々の興味・関心から自由に学習内容や学習方法，学習課題を設定，選択した学習が行われている。教師は，「助言者」の立場から個別指導を行っている。



これらの６つに分類した個別学習の指導方法の指導形態を収集した授業実践から分析すると，「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」を図るには，発展的「個別」指導型が最適であると考えられる。

これは，次の理由による。基本的内容の習得だけが目的ならば，一律的指導型が最適であるが，学習の目的は基本的内容の習得だけでなく，個性を尊重し，主体的な学習態度を育成していかなければならない。そのためにも，基本的内容から発展した知識・理解の習得が必要となってくる。その意味で発展的指導型か個性的指導型が有効であり，これからの授業の目指す指導形態である。

ただ，個性的指導型は，基本的内容の習得を目的とはせず，個々の個性的な方向での学習を目指したもので，「基礎・基本の徹底」にはそぐわないものである。やはり，「個性化教育の推進」が基本的内容の習得を土台としたものその発展の中での学習であるとしたならば，基本的内容を習得し，その学習をふまえて個性的に発展させている発展的指導型が適切である。

また，発展的指導型の中には，学習形態により「一斉」と「個別」があるが，より「個性の尊重」を重視した指導方法が工夫されている「個別」指導型が適切である。つまり，「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」の両立を図るには発展的「個別」指導型が適切であるといえる。

この点について，以下，具体的実践をもとに述べていく。

Ⅲ　個別学習の授業実践の分析

(1)　「工業単元」における授業実践

発展的「個別」指導型の実践の中で特に基本的内容の「生産」「工夫」の習得を重視している「伝統を生かした工業」[6]を取り上げる。

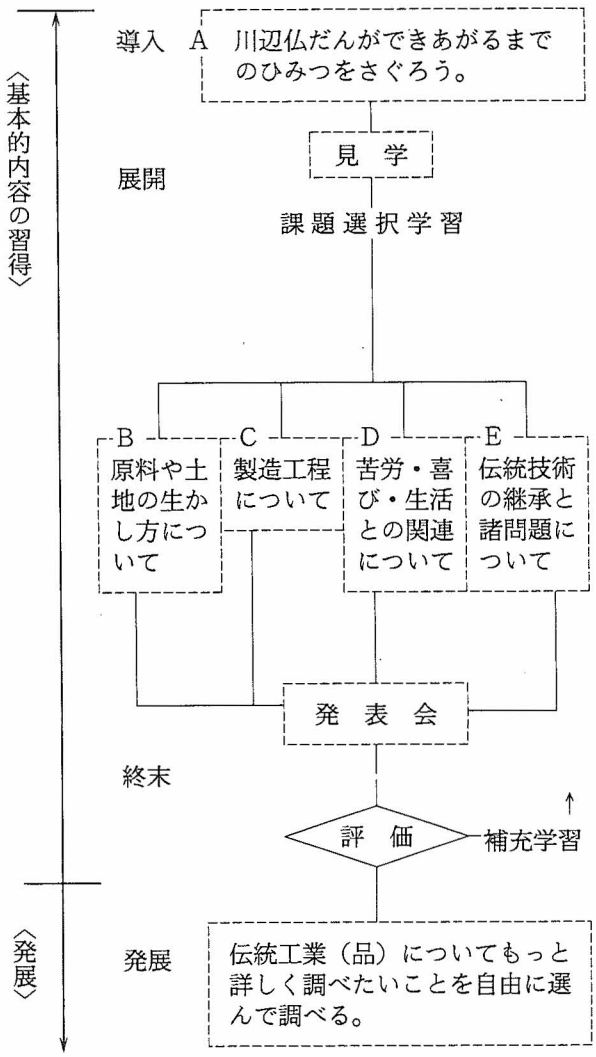
①　目　　標

伝統工業は日本各地に見られ，手作りの技術を受け継ぎ，原料や土地条件を生かしながら，地域ぐるみで伝統を守る努力が続けられていることを理解できるようにする。

②単元展開

本実践では，目標や単元展開から明らかなように，「川辺の仏だん」を教材に，工場の見学を通して仏だん作りに励む職人の技術や努力，長年の修行などをとらえさせようとしていることから基本的内容の「生産」「工夫」の習得が図られている。

そこで，仏だんづくりのＶＴＲをみて，特に調べたいことを話し合い，見学の視点づくりがなされている。さらに調べたいこととして，４つの課題が設定され，関心のあるものを選択できるように課題選択学習が組まれている。ここでは，「原料」「生産工程」「苦労や努力」「伝統的な技術」の４つの側面から「川辺の仏



だんをとらえさせようとしている。これらの学習により「伝統的な工業」における基本的内容が習得され，さらに「評価」後の補充学習で徹底されることになる。

「発展」では，伝統工業の基本的内容を習得したあと，発展課題としてさらに調べたいことについて自由に課題を設定させた追求をさせている。この詳細な記述はなかったが，全国の伝統的な工業を調べたり，学習した内容以外について，興味・関心あるものを自由に設定させているものと推測できる。

このように，本実践は，「基本的内容の習得」までは，個々の実態に応じた課題選択学習が行われ，さらに自由に課題を設定させた「発展」が組まれていることから，この実践は典型的な発展的「個別」指導型であり，「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」を両立させる有効な学習形態である。それは，以下の２つの理由からである。

・「基本的内容の習得」では個々の興味・関心や能力といった実態に対応させた指導法を取り入れ，しかも評価や補充学習などにより基本的内容の徹底が図られている。

・基本的内容の学習後，さらに個性的な発展させる場が保障されている。

しかし，発展的「個別」指導型においても以下のような問題点がある。

○「個別学習における学習内容」についての問題点

４つの学習課題を課題選択学習で行うと，それぞれの学習課題により習得される基本的内容が異なるため，共通の基本的内容の習得ができない。具体的には，Ｂ「原料や土地の生かし方について」からは，基本的内容の「条件」が，Ｃ「製造工程について」からは，基本的内容の「生産」が習得される。また，ＤＥ「苦労・喜び・生活との関連について」や「伝統技術の継承と諸問題について」からは，基本的内容の「工夫」が習得される。このように，「個別学習における学習内容」として，それぞれの課題により習得される基本的内容が異なるという「基本的内容との関連がない個性的な学習内容」を設定しているため，基本的内容の「条件」「生産」「工夫」が共通に習得されていないところに問題がある。従って，「基本的内容の習得」では，「改善の視点」に基づき，共通の基本的内容を習得させるために，「基本的内容との関連が明確な学習内容」を設定するように改善する必要がある。

○「発展」の学習内容についての問題点

「発展」では，「各地の伝統的な工業（品）」と「他事例」への発展を図った「基本的内容からの方法的発展」であるため，限定した学習内容となっており，個々の自由で個性的な追求活動が図られていないところに問題がある。

(2) 個別学習の授業改善点

発展的「個別」指導型に残されている問題について述べる。「個別」学習の指導方法として，主に課題選択学習，課題順序選択学習，能力課題選択学習があり，それぞれの問題点を整理すると以下のようになる。

・課題選択学習

：選択する学習課題により，習得される基本的内容が異なる場合がある。

・課題順序選択学習

：学習する順序が異なるだけで，同じ学習課題を学習するため，共通した基本的内容の習得が図れるが，学習時間がかかりすぎる。

・能力別課題選択学習

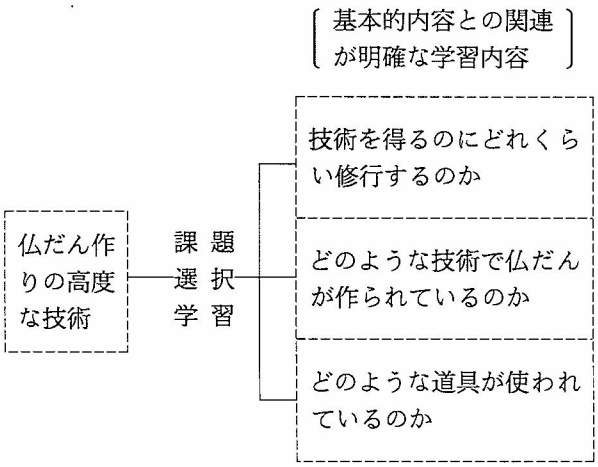
：子どもの能力によって，教師の側でコースが選択されるため，子どもの個性が生かしきれていない。

また，収集した授業実践をみると「個別」学習の指導方法としては課題選択学習がいちばん多く採用されている。これは，子どもの興味・関心に応じた学習が展開させやすいためといえる。そこで，「基本的内容

の習得」における個別学習の指導方法としては，課題選択学習が有効であるといえる。ただ，上に示したように選択する学習課題により習得される基本的内容が異なるという問題がある。そのため，共通の基本的内容の習得が図れるように「基本的内容との関連が明確な学習内容」を設定する必要がある。

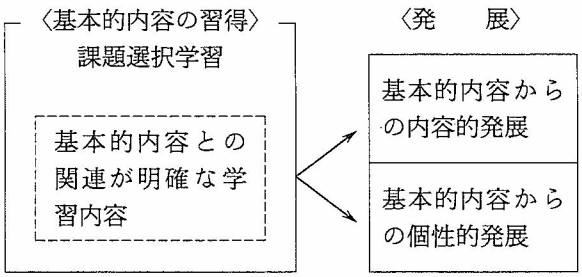
さらに，共通の基本的内容を習得させるために，焦点化した学習内容を設定する必要がある。それが，「基本的内容との関連が明確な学習内容」である。

例えば，次項のように学習内容を設定すれば，どの学習課題を選択しても基本的内容の「工夫」を習得させることができる。



このように，「基本的内容の習得」での学習内容が「基本的内容との関連が明確な学習内容」であれば，課題選択学習においても共通した基本的内容が習得できることになる。

このことから，授業改善策としては，発展的「個別」指導型の学習形態で，しかも個別学習の指導方法や学習内容は，それぞれの特性を考慮した以下のような組み合わせが適切である。そこで，以下の図を「授業改善の視点」とする。



まず，「基本的内容の習得」においては，課題選択学習により「基本的内容との関連が明確な学習内容」を学習することで「基礎・基本の徹底」が図れる。さらに「発展」において，「基本的内容からの内容的発展」か「基本的内容からの個性的発展」をめざす学習により，個々の興味・関心に基づいた個性的な追求活動が保障されていくことになる。

Ⅳ　おわりに

収集した58の実践事例[7]を分析することにより，「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」を両立させる学習指導方法として，発展的「個別」指導型が最適であることを述べてきた。しかし，この指導型においても，学習内容や指導方法についていくつかの問題点がある。この問題点を改善しようとしたものが「授業改善の視点」である。

このように，本研究は，「基礎・基本の徹底と個性化教育の推進」の両立を図るための授業方法論について，次の２つの点から意義づけることができる。一つは，「産業学習」（伝統的な工業）における基本的内容や個別学習の特性を明らかにし，基本的内容と個別学習との関連から有効な指導形態を導き出したことである。二つは，その指導形態に基づいた「授業改善の視点」を設定したことである。

今後は，本研究の成果を生かした実践的研究が必要であり，また，実践によってさらに検証・修正していくことが課題である。

〈注〉

(1)中野重人『改訂小学校学習指導要領の展開 ―― 社会科編』明治図書　1989．P18.

(2)福岡県教育研究所連盟『一人ひとりに応じる授業の方法と技術 －日常的に実践できる個別化・個性化』第一法規　1986．P15.

(3)主な文献・雑誌を紹介する。

・加藤幸次『個別化教育入門』教育開発研究所　1989

・水越敏行『個を生かす教育』明治図書　1990

・安彦忠彦『授業の個別指導入門』明治図書　1979

・全国教育研究所『個別化教育の進め方 －実践の手引きと展望』小学館　1988

(4)文部省『小学校指導書　社会科編』大阪書籍　1979．ＰＰ42-49.

(5)和歌山大学附属小学校研究紀要『学ぶ力を育てる』1987．ＰＰ17-30.

(6)鹿児島県加世田小学校　研究紀要『一人一人の子どもを生かし確かな力をつける指導法の研究』1986.

(7)授業実践の事例リストについては，拙稿『社会科における基本的内容に関する個別学習の授業実践とその改善 － 小学校５年「産業学習」の実践事例を手がかりとして －』1992年度兵庫教育大学大学院修士論文　1992．12 を参照されたい。